

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	京都大学	拠点番号	D09
申請分野	人文科学		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成 (Towards a Center of Excellence for Research and Education in Humanities in the Age of Globalization)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 史学・哲学・文学〉(世界史)(文化交流史)(哲学原論・各論)(比較文学)(文献学)		
専攻等名	文学研究科(歴史文化学専攻・思想文化学専攻・文献文化学専攻・現代文化学専攻・行動文化学専攻)		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 紀平 英作 教授 他 19名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

<本拠点がカバーする学問分野について>

歴史学・哲学・文学の三分野を柱として、それぞれについての西洋から東洋、古代から現代にいたる人文学の全領域をカバーする。具体的には、「グローバル化時代の多元的歴史学」「多元的世界と哲学」「文学と言語に見る異文化意識」という三つの基層プロジェクトのもとで、グローバル化時代に必要となるべき人文学的研究分野全体を網羅的に扱ったうえで、その包括的な総合を試みる。

<本拠点の特色及びその目的等>

本拠点は、20世紀後半から始まったグローバリゼーションと呼ばれる地球規模での変容が、これからの人間の生き方にかなるインパクトをもつという喫緊の問題について、歴史学・哲学・文学という人文学の全領域を通じて総合的に研究することを目的としている。その研究は、本研究科のこれまでの百年近い研究蓄積を十分に活用しつつ、現代的な要請に応えるべく、より広い国際的な連携の視野に立って人文学の再構築を図ろうとするものであり、その最終的目標を「調和ある多様性」のヴィジョン作りにおく。

<COEを目指すユニーク性>

人文学において歴史学・哲学・文学の相互連携による総合的研究は必須な条件であるが、この条件を十分に満たすべき人材と資料の蓄積をもつ総合的な研究拠点は、本拠点を除けばわが国において非常に少ない。また、これまで蓄積された東洋から西洋にいたるきわめて幅広い国際的教育研究ネットワークを、さらに人文学の再構築に向けた新たな基盤へと活用しようとしている点も、現代世界の喫緊の人文学的課題にとりくむ教育研究拠点として優れている。

<本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

現代の政治、科学、社会一般に見られるグローバリゼーションの現象は、普遍的志向と独自性の尊重の総合という人間文化の基本的要求に、新たな挑戦をつきつけている。人類が近年直面しているグローバリゼーションとそれが及ぼす影響は、歴史的にみても画期的といつてよい新しい側面を持つ。そうした今日の激しい変動の中で、本拠点はとくに「京都」という視点を重視する。京都という歴史的また伝統的遺産を担った研究環境のもとで、地球市民的視野をもつ総合的な人文学知の構築を行うことは、今日のグローバリゼーションが含む普遍性と独自性の総合という問題関心を掘り下げるうえで、極めて有意義な視点と成果をもたらすものと確信している。

<本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果>

本プログラムは平成15年10月『人文知の新たな総合に向けて』第一回報告書(456頁)を刊行したが、さらに平成16年3月末には第2回報告書(全5巻、他に別冊2冊)を刊行する。本プログラムの最大の目標はそれらの報告書の充実にあるが、今後も引き続き複数冊の報告書ならびに関連書籍を公刊することによって、新世紀に取り組むべき人文学の方法、主題を包括的に提示することを目指している。さらに、その間における国際的研究ネットワークの強化とそれに則した教育の推進を通じて、真に国際的な共同研究に適した若手研究者の育成を期待する。その成果は国際学会において活躍する若手研究者を多数輩出することに、また本拠点における課程博士論文の質的向上に反映されることが期待される。

<背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等>

現在国内外において、歴史学・哲学・文学の各分野内部で、従来の専門領域を横断する総合的研究拠点の形成の試みがなされているが、その成果はいまだ試行的なものに留まっている。本拠点の研究課題と方法については、これまでの活動に参加した国内外の研究者から積極的な関心と協力の申し出をすでに受けているが、今後も成果が国内外に引き続き広く報告されることになれば、グローバリゼーションの問題への新たな視点とともに、包括的な人文学研究の新しい範型が示されることになると期待される。また研究成果の蓄積という目標に加えて、国内外への情報提供および社会的連携のために、本プログラムはホームページを積極的に活用しており、その種の広報活動による社会的な成果も大きいものと期待している。

機 関 名	京都大学	拠点番号	D 0 9
拠点のプログラム名称	グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

実施計画に基づいた研究が進められ、一定の研究成果も認められる。

しかしながら、「世界最高水準の研究教育拠点」形成を実現するための方策が十分ではない。目的達成のため、以下の点について具体策を講じる必要がある。

まず、第一に、海外への情報発信、特に、欧文による論文刊行が必須である。日本語の啓蒙書や報告集を大量に出すことよりも、国際的に評価される質の高い研究成果を、欧文の論文や書物として出すことに精力を注ぐべきである。第二に、人的交流について、単なる海外派遣に経費を使うのではなく、新たな研究成果を生み出したり、国際拠点形成に結びつくような国際会議・国際シンポジウムの開催が必要である。第三に、COE研究員とCOE研究補佐員は、京都大学大学院生・博士課程修了者となっているが、公募制を採用するなど、若手の人材育成プログラムについて再考いただきたい。